

令和4年度 守山市在宅医療・介護連携サポートセンターの取組の状況報告

〈今年度の重点目標〉

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）のさらなる推進

いつまでも住み慣れた地域で安心して療養できる環境を整備するため、昨年度改訂したエンディングノートの配布・普及啓発およびACPの推進に努めました。

次年度については、引き続き市民および医療・介護関係者へのエンディングノートの活用およびACPをすすめるとともに在宅療養・看取り支援体制の構築に必要な課題を整理し、さらなる在宅療養・看取りの推進に努めてまいります。

1 今年度の総括

- (1) 改訂版エンディングノートについて、市民に対して出前講座を実施し、自分の望む医療や介護などについて話し合うことの大切さを伝えるとともに活用の普及啓発に努めた。
- (2) 看取りケア研修会において、緩和ケア・疼痛コントロールについて学ぶとともに、事例を通して在宅看取りに関わる専門職の役割について多職種でディスカッションした。
- (3) 在宅医療・療養および看取りに関する意識調査を実施した。

2 今年度の取組報告（ステージ別の取組）別紙のとおり**3 次年度へ向けての取組**

(1) 市民への取組

- ・引き続きエンディングノートを記入・活用できるよう、出前講座などで普及啓発を実施する。
- ・在宅療養・看取りに関する意識調査の結果を踏まえて、より市民が求める在宅療養・看取りの知識の普及啓発を行う。

(2) 関係機関への取組

- ・在宅医療・看取りに関する意識調査の結果を踏まえて、在宅療養・看取りに携わる関係者と課題を共有するとともに、ACPの推進に向けて働きかける。
- ・研修会などを通して在宅療養・看取りの推進に必要な知識や技術を共有する。

ステージⅠ 介護予防の取組

1 エンディングノート【第2版】の普及・啓発 【強化し成果のあった取組】

昨年度改訂したエンディングノート（5,000部）を市内の出先機関（18か所）に設置。広報やホームページ、口コミによる周知の効果があり、例年を大きく上回る反響があった。そのため、新たに5,000部増刷を行った。（令和4年9月議会補正予算）

また、市ホームページや講演会、研修会などの機会を利用して関係者へも配布した。

【配布数】

延べ配布数(平成27年度から令和5年1月末まで)：約20,058冊

令和4年4月から令和5年1月末まで：1,539冊配布

2 地域住民への普及啓発 【強化し成果のあった取組】

民生委員児童委員協議会において出前講座の周知啓発を行い、エンディングノートについての出前講座を実施。「自分にもしものことがあった時に何を大切にするか。」について、もしバナカードを使ったグループワークを取り入れた。出前講座の評判や口コミによる申し込みが多く、市民の関心の高さを実感できた。

また、例年開催している在宅医療・在宅看取り講演会についてもエンディングノートに関するテーマで講演会を開催した。

(1) 出前講座の開催

ア 実施状況

【参加者の声】何を書いたらいいか分かった。
家族にも広めたい。

	開催日	対象者	参加者
1	5月10日	こもれびカフェ（中部包括認知症カフェ）	11人
2	5月19日	守山かがやき塾（高齢者学級）	19人
3	5月26日	守山きらり塾（地域教育学級）	36人
4	6月27日	65歳からの過ごし方教室（南部）	9人
5	6月29日	65歳からの過ごし方教室（中部）	28人
6	7月1日	65歳からの過ごし方教室（北部）	7人
7	7月4日	すこやかサロン（千代町）	23人
8	7月25日	守山市高齢ろうあ者と手話通訳者	8人
9	11月14日	中洲学区すこやかボランティア	13人
10	12月7日	一般社団法人 実践倫理宏正会 守山支部	20人
11	12月7日	吉身東町すこやかサロン	16人
12	1月18日	やじま元気クラブ	16人
13	1月18日	すみれ教室（玉津学区地域教室学級）	18人
14	2月10日	家族介護者教室（中部包括）	6人
15	2月15日	守山市シルバー人材センター	12人
合計			242人

【民生委員児童委員の声】

1冊が薄く書きやすい。ぜひ、地域で広めたい。

イ 出前講座に関する周知啓発

広報への掲載や介護支援専門員研修会、民生委員児童委員定例会等で周知を行った。

(2) 在宅医療・在宅看取り講演会 ※昨年度に引き続き感染予防対策を行った上で実施。

日 時	令和4年11月19日(土) 午後1時30分から3時30分まで
場 所	守山市民ホール 大ホール
演 題	落語で笑って学ぼう！人生笑顔で！笑ンディングノート ～人生について考えてみませんか？～
講 師	生島 清身 氏 (行政書士・社会人落語家)
講演概要	<p>○創作落語～天国からの手紙～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺言書の作成も大事であるが、想い・考えを家族や周囲の方に伝えることはとても大切である。その時に役立つものが「笑ンディングノート」。 ・「笑う」という一文字を使い、人生を楽しく生きていくためにこのノートがある。明るいイメージを持ってもらえたらと思っている。 <p>○笑ンディングノートについて</p> <p>当市のエンディングノートの内容に沿った形で「私について」「医療や介護について」「葬儀やお墓について」「財産相続に関すること」「大切な人へのメッセージ」の5つの項目で講演。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死というのは、見方を変えれば、生きるということ。その人の人生を自分らしく悔いなく最後まで生ききる。 ・人生会議は特別なことでない。普段の会話から、話をしてもらいたい。 ・想いを書き留めること。
参加人数	119人 (内訳：市民63人、医療関係4人、介護関係5人、その他47人)
参加者の声	<p>(1) 講演内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演内容については、「とてもよかった」「よかった」が8割。 ・落語を交えて、とてもわかりやすく、よかった。 ・死について話し合うことは、マイナスのイメージではなく生きるという明るい前向きなことだと考えが変わった。 ・言葉にできない想いを書き残したいと思った。 <p>(2) 講演を聞き、エンディングノートを書こうと思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンディングノートを「書きたい」「今後検討したい」が8割であり、エンディングノートに関心をもってもらえた講演会であった。また、「すでに書いている」が1割であった。

(3) 人生の最期に向けて家族や親しい人と話し合いたいかな。

- ・「話し合いたい」が全体の7割を占めていた。「すでに話し合っている」が15名(14.9%)であり、「話し合いたくない」は5名であった。

(4) 話し合いたいと答えた人の方法と理由

- ・最も多かったのは「家族や親しい人と話し合う」であり、全体の6割以上を占めていた。次いで多かったのは「エンディングノートに書く」であり、21名(21.9%)であった。
- ・普段の生活、会話の中で伝えておいてほしいこと、伝えたいことを話し合うことが必要だと感じた。
- ・家族や子どもに自分の老後、介護や医療に対する思いを伝えておきたいと思う。
- ・話せる機会をもつためにも、まずエンディングノートを書いてから。

(5) 在宅看取りを希望したいかな。

在宅看取りを希望したい人：20名(19.8%)

- ・終の居住の家で死にたい。若い時からの希望、父母も祖父母も家で看取った。
- ・住み慣れた自宅で家族の顔を見て逝きたい。
- ・無理のない状況でなら。できる限りでよいと思っている。

在宅看取りを希望しない人：19名(18.8%)

- ・最期は病院で看取っていただきたい。
- ・在宅看取りだと家族に負担がかかるのではないかと思う。
- ・家族の負担になる。経済的に余裕があれば、施設で看取ってもらう方がよいと考えている。

今後検討したい人：39名(38.6%)

- ・自分が思うほど、在宅看取りは簡単ではないと思うので、慎重に考えたいと思う。
- ・一応希望しているが(子どもも了解している)、最終的に子どもができなくなったときは子どもの考えに任せる。
- ・在宅看取りも昔と違って、看取りをしてもらう人がいない。
- ・ピンピンコロリの人生を歩んでいきたい。

その他

- ・家族に負担をかけたくないとは思っている。その時に家族と相談する。
- ・希望したいが限度もある。その時にならないとわからない。自分としては在宅が一番よいが、こればかりは周りの協力があるから、今後検討していく必要がある。

ステージⅡ 医療・介護サービスの利用等

1 在宅医療・病診連携ハンドブックの更新および配付 【昨年度同様】

在宅医療・介護連携の推進強化を目的に、地域の医療機関情報を掲載した「在宅医療・病診連携ハンドブック」を守山野洲医師会と協働で内容を更新し、7月末に診療所、病院、居宅介護支援事業所、訪問看護事業所へ配付した。

【配付数：診療所・病院 56 か所、居宅介護支援事業所 20 か所、訪問看護事業所 11 か所】

2 「介護サービス事業所情報」（冊子）の更新および配付 【昨年度同様】

地域の介護サービスの周知啓発を図るため、「介護サービス事業所情報」（冊子）を更新し、9月末に医療・介護サービス関係者および市民へ配付した。【配付数：99 か所】

3 在宅医療・介護連携に関する相談支援 【昨年度同様】

高齢者が安心して在宅療養ができるように、市民や介護者等の相談に応じ、在宅医療・介護を支える関係機関と連携を図りながら適切な医療・介護サービスの提供等に努めた。

相談件数	実人数：301人（259人）、件数：延919件（延613件） ※令和4年4月から令和5年1月末まで。（ ）は昨年同時期。
主な相談内容	介護保険の新規申請、退院調整にかかる地域医療連携、 ケアマネジャー選定・サービス調整の支援、看取り支援等

4 医療・介護関係者の研修

(1) 守山顔の見える会の開催【成果のあった取組】

多職種がそれぞれの専門性についての理解を深め、連携を強化するために開催。これまでは人数制限を設け、会場のみでの開催であったが、第48回からはオンラインを併用した開催方法に変更。その結果、1.6倍増の参加状況となっている。

回	開催日	内容（予定）	参加人数
第46回	4月14日	守山市における認知症施策について 講師：守山市地域包括支援センター 所長 池田 初美 氏	36人 (会場のみ)
第47回	6月9日	高齢者の口腔ケア・在宅歯科診療について 講師：(一社)草津栗東守山野洲歯科医師会 在宅歯科医療連携室 室長 奥村 喜与子 歯科医師	42人 (会場のみ)
第48回	8月18日	在宅看取り～病診の連携～ 講師：済生会守山市民病院 院長 野々村 和男 医師 岸本産婦人科在宅医療部門 理事長 岸本 琢磨 医師	73人 (会場 28人) (Zoom 45人) ※新型コロナウイルス第7派により、会場の人数制限あり

第 49 回	10 月 13 日	<p>痛くないね・どこでも緩和 講師：滋賀県立総合病院 緩和ケア科長 花木 宏治 医師 ※守山市看取りケア研修会第 1 日目と合同開催</p>	<p>58 人 (会場 41 人) (Zoom 17 人)</p>
第 50 回	12 月 8 日	<p>自立支援への取組 (リハビリの視点) について 講師：リハステーション守山 西山 翔太 氏 ゆいの里訪問看護ステーション 坂野 喜一 氏</p>	<p>59 人 (会場 42 人) (Zoom 17 人)</p>
第 51 回	2 月 9 日	<p>地域における医療連携の「これから」を考える ～緊急受診の事例より見えてきたこと～ 講師：守山市北部地区地域包括支援センター 所長 岩本 千佳子 氏 保健師 見置 幸代 氏</p>	<p>60 人 (会場 40 人) (Zoom 20 人)</p>

【第 46 回 守山顔の見える会の様子】



【第 47 回 守山顔の見える会の様子】



【第 48 回 守山顔の見える会の様子】



【第 49 回 守山顔の見える会の様子】



【第 50 回 守山顔の見える会の様子】



【第 51 回 守山顔の見える会の様子】



(2) 介護支援専門員研修会の開催（年5回）

介護支援専門員を対象に、在宅医療・介護連携についての資質向上ならびにケアプラン作成技術の向上を図るため開催。

介護支援専門員からはオンラインでの研修が参加しやすいとの声が多いことから、講義形式の研修会は会場およびオンラインでの開催としており、交流目的やグループワークを取り入れた研修会は会場型の研修会を実施した。

回	開催日	内容	参加者
第1回	5月11日	民生委員児童委員と介護支援専門員との交流研修会（講義とグループワーク） 「地域づくり～民生委員・児童委員と介護支援専門員のそれぞれの立場でできること～」 講師：速野学区民生委員児童委員協議会 会長 山本 なお栄 氏 守山市北部地区地域包括支援センター 所長 岩本 千佳子 氏	46人 (会場のみ)
第2回	7月15日	複合的な課題のある家族への支援について(講義) 講師：守山市 生活支援相談課 係長 大木 あかね 氏	44人 (会場1人) (Zoom43人)
第3回	9月16日	介護支援専門員と地域づくりについて(講義) 講師：社会福祉法人綾部市社会福祉協議会 事務局長 山下 宣和 氏	39人 (会場3人) (Zoom36人)
第4回	11月15日	自立支援について（講義とグループワーク） 講師：守山市地域包括支援センター 主事 岡本 昌信 氏	29人 (会場のみ)
第5回	3月15日 (予定)	障害サービスと介護サービスについて(講義とグループワーク) 講師：社会福祉法人ひだまり 虹色ひだまり 管理者 竹岡 幸子 氏	一人 (会場のみ)

ステージV 看取り支援、ステージVI遺族ケア

1 守山市看取りケア研修会（2回シリーズ） 【強化し成果のあった取組】

「住み慣れた地域で最期まで過ごしたい。」という本人の思いに寄り添った看取りケアに関する知識および技術の修得ならびに多職種連携の強化を図るため、医療・介護サービス関係者に対し、研修会を2回開催した。医師の参加が少ないこと、昨年度の本協議会において「麻薬を取り扱える医師の増加が必要。」との声もあったことから、第1日目は医師が参加しやすいよう、守山顔の見える会との合同開催として実施した。参加者アンケートの結果からは8割以上が「よくわかった・わかった」との回答であった。第2日目は、1つの事例を多職種の視点で考えることを目的に、事例提供者だけではなく、パネリストのディスカッションを取り入れた形式で実施した。その結果、参加者全員から「大変よかった・よかった」と大変満足度の高い研修会となった。

(1) 1日目 ※第49回守山顔の見える会と合同開催

日 時	令和4年10月13日（木）午後2時から4時まで
場 所	守山市福祉保健センター（すこやかセンター）3階 講習室
内 容 (講義)	テーマ：痛くないね・どこでも緩和 講 師：滋賀県立総合病院 緩和ケア科長 花木 宏治医師
参加者	(1) 会場参加 41人 (職種) 医師7人、歯科医師1人、薬剤師8人、看護師4人、鍼灸師1人、介護支援専門員5人、社会福祉士1人、介護職2人、その他2人、行政10人 (2) オンライン参加 17人 (職種) 病院相談員1人、薬剤師4人、介護支援専門員11人、その他1人
アンケート 結果	(1) アンケート回収率 56.9% (内訳：会場 65.9%、オンライン 35.3%) (2) 講義の内容について よくわかった 14人 (42.4%) わかった 13人 (39.4%) 【特に参考になったことや実践できそうなことについて】 ・PCA ポンプ等の使用で在宅への移行がしやすく、多職種連携がキーワードとなることがわかった。(薬剤師) ・緩和ケア病棟への入院の仕組みを知ったうえで、適切な情報提供や理解が導ける支援の仕方を実践していきたい。(社会福祉士) ・在宅⇄病院の連携で、患者・家族が希望する療養場所で過ごせるチャンスが広がり、最期の選択肢が選べるのが、なによりも大切なことだと思った。(ケアマネ) ・オピオイド導入時、副作用について本人が納得できるように説明して下さっていると、本人・家族も安心して苦痛なく過ごせる。年々、在宅で最期の時まで！を希望する方が増えている。市民が医療・介護サービスを活用しやすい方法を普遍化していきたい。(看護師)

8割以上が理解
できたと回答！

(2) 2日目

日 時	令和4年11月11日(金) 午後2時から3時30分まで
場 所	守山市コミュニティ防災センター1階 研修室
内 容 (事例検討)	在宅看取りにおける事例検討 「最期まで癌と闘い続けた若き自衛官を支援して ～ケアマネの役割を振り返る～」 事例提供者：ゆうらいふ居宅介護支援事業所 深田 知洋江 氏 パネリスト：【病院医】滋賀県立総合病院 花木 宏治 氏 【在宅医】津田内科医院 津田 透 氏 【薬剤師】ふれあい薬局 鈴木 文子 氏 【訪問看護師】 ゆうらいふナースステーション 堀家 久美子 氏 【ケアマネジャー】※事例提供者と同じ アドバイザー：ふくだ医院 福田 正悟 氏 済生会守山市民病院 野々村 和男 氏
参加者	26人 (職種) 薬剤師7人、病院看護師1人、鍼灸師1人、訪問看護師1人、 介護支援専門員8人、介護職2人、その他2人、行政4人
アンケート 結果	(1) アンケート回収率 92.3% (2) 看取りの事例への関わりについて ある：13人 (54%) (3) 事例検討会・グループワークについて 大変よかった：12人 (50%) よかった：12人 (50%) 【その理由】 ・とても大変でスピーディーな事例だったが対応についての仕方が理解できた。連携の大切さがわかった。(薬剤師) ・それぞれの立場での関わり方、意識していることを学ぶことができた。(薬剤師) ・具体的な看取りの事例はなかなか経験できないので、とても参考になった。(ケアマネ) 【特に参考になったことや実践できそうなことについて】 ・家族の気持ちや希望を聞くことが大切で、特に、看取りケアではスピーディーな対応が必要だと思った。(薬剤師) ・サービス担当者会議での多職種との関わり(特に医療、薬局)。医療職とのかかわり方。家族とのかかわり方。(ケアマネ) ・薬剤師のカンファレンスへの参加、その他の参加の場を積極的に促すことも大切。(ケアマネ) ・多職種連携の必要性の大切さを改めて理解した。スピードが求められる場面では、日頃からの『顔の見える』関係性が非常に大切と実感した。(ケアマネ) ・決して、ひとつの職種だけではできないことを改めて感じた。また、顔の見える関係がよいと思う。(看護師)

アンケート回答者
全員が満足!

【第1日目 看取りケア研修の様子】



【第2日目 看取りケア研修の様子】



ステージⅠ～Ⅴ 在宅医療・介護連携にかかる課題の抽出と対応策の検討について

1 在宅医療・療養および看取りに関する意識調査の実施【新規】

(1) 実施結果の概要 ※別紙資料2参照

調査時期は連休の少ない日程とし、新型コロナウイルス第7波が落ち着いた頃を見計らって実施をしたが、回収率は前回、前々回調査と比較すると全体的に低かった。回収率が下がった要因としては、今回の調査の提出先を調査の集計・取りまとめを委託する業者宛てとしたことから、市民や事業所から「本当に行政の調査なのか。」という不安感・不信感につながり、返信を躊躇された方が一定数おられたのではないかと考える。実際、そのような問い合わせや回答したくないと調査票を返却された方もあった。今後は事前に調査の実施について広報などで告知することや、オンライン回答も可能な調査にするなど、工夫が必要である。

【在宅療養・看取りに関する意識調査】

	平成26年度	令和元年度	令和4年度
調査対象者	40歳以上の市民2,000人	40歳以上の市民1,600人	40歳以上の市民1,600人
質問項目数	40項目	45項目	48項目
調査期間	H26.8.15～9.5	R1.12.20～R2.1.8	R4.10.11～10.31
回収率	48.9%	43.8%	42.1%

【在宅医療・看取りに関する意識調査】

	平成27年度	令和元年度	令和4年度
調査対象者	診療所 52か所	診療所 56か所	診療所 59か所
	(23項目) 51.9%	(26項目) 48.2%	(24項目) 47.5%
	歯科診療所 28か所	歯科診療所 27か所	歯科診療所 27か所
および	(16項目) 75.0%	(19項目) 66.7%	(17項目) 66.7%
	薬局 27か所	薬局 34か所	薬局 35か所
	(16項目) 66.7%	(18項目) 75.6%	(17項目) 45.7%
回収率	訪問看護ステーション	訪問看護ステーション	訪問看護ステーション
	(17項目) 6か所	(20項目) 10か所	(19項目) 11か所
	()内は 83.3%	60.0%	63.6%
質問項目数	居宅介護支援事業所	居宅介護支援事業所	居宅介護支援事業所
	(14項目) 21か所	(18項目) 24か所	(19項目) 21か所
	95.2%	70.8%	66.7%
	介護サービス事業所	介護サービス事業所	介護サービス事業所
	(12項目) 88か所	(15項目) 94か所	(15項目) 97か所
	68.2%	52.1%	45.4%
	合計222か所	合計245か所	合計250か所
調査期間	H27.9.10～10.31	R2.1.20～2.3	R4.10.11～10.31

(2) 病院へのインタビューの概要 ※別紙資料3参照

在宅療養・看取りは、大きく分けて二つのパターンがある。一つは老衰など長期的な療養となるパターンであり、もう一つはがん末期など状態が急変するパターンである。インタビューを通して、在宅療養・看取りを勧めていくには、このパターンによって本人支援、家族支援の内容が異なること、看取りの方法も様々であることが把握できた。

今後は、関係者とともにこのパターンを理解した上で、在宅療養・看取りを勧めていけるよう、体制づくりに努めたい。

	済生会守山市民病院	滋賀県立総合病院
調査日	令和5年1月12日(木)	令和5年1月20日(金)
調査対象者	野々村和男 院長 木村真奈美 副院長・地域医療支援部長 野々村千秋 在宅療養支援部看護師長	花木宏治 緩和ケア科長 横田聡美 緩和ケア病棟看護師長 金田尚美 地域医療連携室看護師

2 守山市在宅医療・介護連携推進協議会の開催(年2回)

本協議会にて在宅医療・介護連携推進事業に対する評価および検討を実施。

	開催時期	主な協議内容
第1回	7月12日	・今年度の取組方針について ・意識調査の実施について
第2回	2月27日	・今年度の取組の状況報告 ・意識調査の結果について ・病院へのインタビューの結果について ・在宅療養・看取りシミュレーション～退院⇒療養⇒看取り～